

平成 22 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19320132

研究課題名 (和文) 地理思想及び社会思想としての「郷土」に関する研究

研究課題名 (英文) A research on “Kyodo (homeland)” as geographical and Social thought

研究代表者

大城 直樹 (OSHIRO NAOKI)

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：00274407

研究成果の概要 (和文)：本研究では、「郷土」という表象が、いかにして近代の日本において受容ないしは導入され、国民の地理的想像力のなかで確固とした実在物として自明化されていたのか、さらに「郷土」表象をめぐる実践が、どのようなかたちで展開していったのか、これらの主題について検討を行った。その結果、文部省における郷土表象の近代的制度化が明らかにされ、郷土教育の実践においてどのようなカリキュラムでどのような教材が使用されていたか、また他の郷土関連のイベントや博物館等の施設の設置・普及、また民芸運動やツーリズムの展開などどのように連関していたのか、さらには市民共同体での表象の位相など、多角的な局面から明らかにすることができた。

研究成果の概要 (英文)：This research project aimed to examine a representational and material process of an idea of “Kyodo (Heimat, homeland)” in the modern Japan. Our particular research interests revolved around three modalities, (1) how the idea was accepted, (2) how the idea became postulated as a stable entity in nations’ geographical imagination, and (3) how various practices for the representation of the “Kyodo” took place and were developed. In so doing, we focused on a relationship between an educational system, molded up by the Ministry of Education, that invented teaching programs and materials to teach pupils geography of their own ‘homeland’, and other various movements such as developments of folklore and folk craft studies, discussions over a museum display of the localness, and promotion of domestic tourism. We also unveiled how the idea of “Kyodo” contributed to an anchoring of coherent local communities. The research leads us to understand various aspects of the development of the representation of “Kyodo”.

交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費       | 間接経費      | 合計         |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2007年度 | 4,600,000  | 1,380,000 | 5,980,000  |
| 2008年度 | 3,800,000  | 1,140,000 | 4,940,000  |
| 2009年度 | 3,700,000  | 1,110,000 | 4,810,000  |
| 年度     |            |           |            |
| 年度     |            |           |            |
| 総計     | 12,100,000 | 3,630,000 | 15,730,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：郷土 地理思想 社会思想 地理的想像力 地理表象 郷土教育 展示

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 内務省の地方改良運動や文部省主導による郷土教育運動によって、いかにして「郷土」なるものが表象され、制度化され、また国民に身体化されていったかを明らかにしてみようというのが初発の問いであった。

(2) さらに、「郷土」なるものが身体化されることにより、この特定の空間的範域と情動との結びつきがどのように展開・動員されていくかにも注目することとした。むろんこのことは（とくに日清・日露から第二次世界大戦へと至る時期における）ナショナリズムの問題とも絡んでくる。

(3) また、同時代の運動である民俗学や民具研究の形成、民芸運動の進展、さらには、ツーリズムの展開、これらについても「ルーラル／ローカル」な地域表象に大いにかかわってくる問題として取り上げ、「郷土」なるものとの関係性を問うこととした。

(4) こうした経過を経て、文化地理学者・社会地理学者を中心に、一部関連する他分野の研究者も含めて研究会メンバーを組織するにいたった。

## 2. 研究の目的

本研究では、「郷土」なるものを単なる制度的実体としてではなく、それをそのように表象せしめる仕組み、ないしはプロセスを明らかにすることに重点を置いた。

(1) よって、学校教育での実践様態（テキストやカリキュラム等の精査）、のみならず、それと連動した地域振興などのイベント、博物館における展示の様態などにも着目する。

(2) とはいえ、そもそもこの「郷土」という表象がどこに由来するものなのかを明らかにする必要もあるだろう。近代日本のコンテクストのみならず、可能であればヘルダー以来のドイツ思想にも遡及してみたい。

(3) 学校教育で育まれた「郷土」表象が自明化されるとなれば、それはその後どのように展開されるのか？ それを明らかにすべく郷土関連の各種展示会、郷土史編纂事業、さらには民俗学、民芸運動、民具研究、博物館設置運動、そして「郷土」関連の各種のメディア・イベントにも注目し、それらの実相を腑分けしていくこととする。

これらについて、各々明らかにするのみならず、それら相互の結び付きの様態についても明らかにしていくことが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

4つの研究班を設置し、それぞれの分野を深めていくこととした。

(1) 「郷土表象の源流班」：本班は19・20世紀ドイツ思想と内務省主導による地方改良運動との間の時間軸を追う。日本におけるド

イツの郷土思想の影響圏を探る。

(2) 「行政・制度的介入研究班」：本班は地方改良運動から文部省主導の郷土教育運動にいたる行政の「郷土」なるものへの介入を検証する。

(3) 「郷土教育研究班」：本班は文字通り郷土教育実践の場を検証していく。さまざまなテキストやカリキュラム、さらには唱歌や校歌における郷土表象についても検討する。

(4) 「郷土表象の展開研究班」：本班は「郷土」のみならず、ローカルな空間的範域へのまなごしを有する知的形態について検討を行う。民俗学、民芸運動、民具研究などがその対象となる。

これら4班は、文献調査や現地調査によりそれぞれの研究を進めていくが、その研究成果報告を毎年度夏季と冬季に合宿研究会で行い、討議を重ねることで、研究を深めていく。また、国内・国外の学会で報告し、メンバー以外の意見や視角を吸収していく。中間期には国内学界でシンポジウムを開催し、これらの成果を最終的には報告書を公刊することで世に問うこととしたい。

## 4. 研究成果

本研究の成果としてはまず、(1)「郷土」なる概念をめぐる近代と前近代の文脈を明らかにしたことにあるといえる。(2)また、それが文部行政の中で徐々に制度化され、郷土教育として学科化され、1930年代には郷土教育運動として一大キャンペーンがはられるまでに至る、この概念の系譜を分節化したことも成果のひとつと言えよう。(3)この間、内務省主導による地方改良運動との兼ね合いや地域振興とも連動する各種展示会、博覧会、教育展示会、また郷土と国家を結び付けるイベントなどの位相についても確認することができたし、(4)柳宗悦らの民芸運動や柳田國男の日本民俗学における「郷土」なるものの表象を精査することもできた。(5)さらには戦前のツーリズムの発達過程におけるローカリティと「郷土」の関係性、戦前期の大都市における市民意識涵養に際しての「郷土」なるものの動員などについても把握することができた。「郷土」なるものをめぐ一連の事象を「思想」という視座から検討することによって、一見すれば個々ばらばらに捉えられてきたものが何やら星座めいた布置関係をもつものと捉えることが可能になったかもしれない。個々の成果については国際・国内学会での発表や論文や書籍としてすでに公表してきたし、2年目の年度末には日本地理学会でシンポジウムを開催し、多くの意見を頂戴することもできた。多岐にわたる一連の成果をここでひとつひとつ取り上げる紙幅はない。近日中に単行本として公刊を予定しているのでそちらを参照されたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計20件)

- ① 関戸明子: 名所絵はがきを読む, 歴博, 査読無, 158, 2010, 7-11.
- ② 荒山正彦: 「内地」と「外地」をめぐる海上ツーリズム: 戦前期における日本一周船と日支周遊船, 関西学院史学, 査読無, 37, 2010, 1-17.
- ③ 遠城明雄: 近代都市と伝染病—門司港におけるコレラ流行—, 史淵, 査読無, 147, 2010, 199-238.
- ④ 大城直樹: 村落景観を「露頭」として身体的経験の「地層」を読む—近代沖縄の民俗地理の諸局面—, 地理, 査読無, 55-2, 2009, 57-65.
- ⑤ 関戸明子: 明治43年の群馬県教育品展覧会と郷土誌編纂事業, えりあぐんま, 査読無, 15, 2009, 41-53.
- ⑥ 中島弘二: 造林ブーム期の大分県における緑化運動の展開—「社会的自然」の視点から—, フォーラム現代社会学, 査読有, 8, 2009, 64-75.
- ⑦ Masato Mori: Translation and transformation: transactions in Japanese social and cultural geography, *Social & Cultural Geography*, 査読有, 9, 2009, 369-397.
- ⑧ 森 正人: 情動に関する短い解説, 空間・社会・地理思想, 査読無, 13, 2009, 92-94.
- ⑨ Masato Mori: Environmental pollution and bio-politics: the epistemological constitution in Japan's 1960s, *Geoforum*, 査読有, 39, 2009, 1466-1479.
- ⑩ 森 正人: 言葉と物—英語圏人文地理学における文化論的転回以降の展開—, 人文地理, 査読有, 61-1, 2009, 1-22.
- ⑪ 森 正人: 1930年代に発見される楠木的なもの, 人文論叢, 査読無, 26, 2009, 147-159.
- ⑫ 大城直樹: ポストモダン都市の遊歩をめぐる諸相, 都市地理学, 査読有, 4, 2009, 71-78.
- ⑬ 福田珠己: 「ホーム」の地理学をめぐる最近の展開とその可能性—文化地理学の視点から, 人文地理, 査読有 2008, 60-5, 403-422.
- ⑭ 福田珠己: 過去と未来の間で—目に見えない領域に挑む文化遺産の現在, 環境と公害, 査読無, 38-1, 2008, 9-15.

他6件

[学会発表] (計25件)

- ① OSHIRO Naoki: Lost in historicity:

Identity politics in contemporary Okinawa, 14<sup>th</sup> International Conference of Historical Geographers, 24<sup>th</sup> Aug. 2009, Kyoto University.

② NAKASHIMA Koji: The contested nature of Hijudai: peoples' struggles for nature in the Hijudai maneuver field, Japan. The 14th International Conference of Historical Geographers. Kyoto University, Japan. 24<sup>th</sup> Aug., 2009.

③ 中島弘二: 抵抗の場としての自然—名護市辺野古の海上基地建設反対運動をめぐる—, 2009年日本地理学会秋季学術大会、琉球大学、2009年10月24日

④ 中島弘二: 沖縄における自然保護と基地反対運動—ジュゴン保護運動とエコツーリズムをめぐる—, 地理科学学会秋季学術大会シンポジウム: 多様な「ヒト-生きもの」関係と地域、広島大学、2009年11月28日

⑤ 中島弘二: 日本植民地主義と自然, —アジア・太平洋戦争期の緑化運動—, 日本科学史学会生物学史分科会シンポジウム: 生物学が語る「自然」のポリティックス、東京大学先端研駒場リサーチキャンパス、2009年12月13日

⑥ FUKUDA Tamami: Visuality/materiality: reviewing theory, method and practice, 9<sup>th</sup> July, 2009, The Royal Institute for British Architects, London

⑦ FUKUDA Tamami: Visualization of homeland (kyodo) through museums: A geographical interpretation of museum theory by Gentaro Tanahashi, 14th International Conference of Historical Geographers, 24<sup>th</sup> Aug. 2009.

⑧ MORI Masato: Yielding national emotion in Japan. 14th International Conference of Historical Geographers. Kyoto University. 27th August, 2009.

⑨ 大城直樹・荒山正彦: 地理思想としての「郷土」—ローカルな領域をめぐる諸実践—, 日本地理学会, 帝京大学, 2009年03月29日.

⑩ 島津俊之: 郷土概念と地理教育の偶有的接合—明治19年「小学校ノ学科及其程度」をめぐる—, 日本地理学会, 2009年3月29日, 帝京大学.

⑪ 関戸明子: 明治43年の群馬県教育品展覧会と郷土誌編纂事業, 日本地理学会, 帝京大学, 2009年03月29日.

⑫ 福田珠己: 「郷土」の視覚化—棚橋源太郎の博物館論を中心に, 日本地理学会, 帝京大学, 2009年03月29日.

⑬ 森 正人: 国家的なるものと地域的なるもののはざま—1930年代の楠木正成をめぐるいくつかの出来事から—, 日本地理学会, 帝京大学, 2009年03月29日.

⑭ 荒山正彦: 郷土とツーリズムの接合, 日本地理学会, 帝京大学, 2009年03月29日.

⑮遠城明雄：第一次世界大戦後の日本の地方都市における地域住民組織，日本地理学会，帝京大学，2009年03月29日。

⑯ OSHIRO Naoki: Whose appropriation?: changing cultural urban landscapes in Okinawa cities, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, Seoul University, 14<sup>th</sup> Dec., 2008.

⑰ FUKUDA Tamami: Whose memories are reflected in a landscape?: under the system for protecting cultural landscapes, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, Seoul University, 14<sup>th</sup>, Dec., 2008.

⑱ NAKASHIMA Koji: Sovereign power, people and nature: grassroots antiwar movements and alternative productions of nature, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, Seoul University, Korea, 13<sup>th</sup> Dec., 2008.

⑲ 中島弘二：戦後日本における国土緑化運動の展開－「社会的自然」の観点から－，関西社会学会大会 シンポジウム「環境メディアの誕生と社会」2008年5月25日，松山大学。

⑳ MORI Masato: What's the matter with national identity?, Public Lecture at the National University of Singapore, 28<sup>th</sup> March, 2008

他5件

〔図書〕(計12件)

①竹中克行・大城直樹・山村亜希・梶田真編『人文地理学』ミネルヴァ書房，2009，291p.

②関戸明子：戦前期における鉄道旅行の普及と草津温泉の変容，神田孝治編『観光の空間－視点とアプローチ－』ナカニシヤ出版，2009，16-25.

③荒山正彦：植民地観光とその記録，神田孝治編『レジャーの空間：諸相とアプローチ』ナカニシヤ出版，2009，270.

④荒山正彦：那覇市国場川河口域におけるエコロジー。神田孝治編『観光の空間：視点とアプローチ』，ナカニシヤ出版，2009，245-253.

⑤森 正人：リゾートと自宅のアジア的なもの」神田孝治編『観光の空間』，ナカニシヤ出版，2009，176-187.

⑥森 正人：イギリス・ダラムにおける産業遺跡化と記憶の発掘，神田孝治編『観光の空間』ナカニシヤ出版，2009，56-66.

⑦加藤政洋：『京の花街ものがたり』，2009，277p.

⑧加藤政洋：『敗戦と赤線－国策売春の時代－』，光文社，2009，244p.

⑨加藤政洋：『神戸の花街・盛り場考－モダン都市のにぎわい－』，神戸新聞総合出版セ

ンター，2009，190p.

⑩中島弘二：沖縄における草の根平和運動とエコツーリズムの展開，金沢大学文学部地理学教室編『自然・社会・ひと－地理学を学ぶ－』古今書院，2009，96-114.

⑪森 正人：『大衆音楽史－ジャズ，ロックからヒップホップまで』中公新書，2008，276p.

⑫関戸明子：『近代ツーリズムと温泉』ナカニシヤ出版，2007，206p.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~oshiro/kyodo1.htm>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大城 直樹 (OSHIRO NAOKI)

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授  
研究者番号：00274407

### (2) 研究分担者

竹中 均 (TAKENAKA HITOSHI)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号：90273565

(2008年度～：連携研究者)

関戸 明子 (SEKIDO AKIKO)

群馬大学・教育学部・准教授  
研究者番号：50206629

島津 俊之 (SHIMAZU TOSHIYUKI)

和歌山大学・教育学部・准教授  
研究者番号：60216075

遠城 明雄 (ONJO AKIO)

九州大学・大学院人文科学府・教授  
研究者番号：00243866

(2008年度～：連携研究者)

中島 弘二 (NAKASHIMA KOJI)

金沢大学・人間科学系・准教授  
研究者番号：90217703

荒山 正彦 (ARAYAMA MASAHIKO)

関西学院大学・文学部・教授  
研究者番号：70263184

宮田 眞治 (MIYATA SHINJI)

東京大学・人文社会系研究科・准教授  
研究者番号：70229863

(2008年度～：連携研究者)

前川 修 (MAEKAWA OSAMU)  
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授  
研究者番号：20300254  
(2008年度～：連携研究者)

福田 珠己 (FUKUDA TAMAMI)  
大阪府立大学・人間社会学部・准教授  
研究者番号：80285311

加藤 政洋 (KATO MASAHIRO)  
立命館大学・文学部・准教授  
研究者番号：30330484

森 正人 (MORI MASATO)  
三重大学・人文学部・准教授  
研究者番号：10372541

(3) 連携研究者

茶谷 直人 (CHATANI NAOTO)  
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授  
研究者番号：00379330  
(2009年度のみ)